
令和元年度 事業報告書

自：平成31年 4月 1日

至：令和 2年 3月31日



学校法人 尽誠学園

令和元年度 事業報告書

目次

I. 法人の概要	
1. 基本情報	1
2. 建学の精神	1
3. 学校法人の沿革	2
4. 設置する学校・学科等	3
5. 学校・学科等の学生生徒数の状況	3
6. 役員の概要	4
7. 評議員の概要	4
8. 教職員の概要	4
II. 事業の概要	
1. 令和元年度事業	5
2. 中期的計画（基本目標と行動計画）	14
III. 財務の概要	
1. 決算の概要	20
2. 経営状況の分析	20
3. 経営上の成果と課題	20
4. 今後の方針・対応方策	21
5. 経年比較	
(1) 貸借対照表	21
(2) 資金収支計算書・活動区分資金収支計算書	21
(3) 事業活動収支計算書	23
(4) 財務比率	24

I. 法人の概要

1. 基本情報

項目	内容
法人の名称	学校法人 尽誠学園
主たる事務所の住所	〒765-0053 香川県善通寺市生野町855番地1（法人本部）
電話番号	0877-63-1717
FAX番号	0877-63-3860

2. 建学の精神

建学の精神とは、学校を創立する目的についての根本となる考えのことで、学祖大久保彦三郎が作った「盡誠舎学制略掲（1887年）」によると、盡誠舎創立の目的は、ただ理屈をこねる無用な学者を育成するのではなく、「有用の真士（国家・社会に役立つ学問・人格の優れた人物）」の育成であると言っています。その方法として、「徳を養い智を磨き体を練り」と述べ、何事をやるにも「至誠（この上なく誠実な心）から出ることではなければ立派なことではできないから、至誠を尽くさせることを根本とすると協調し、舎名を「盡誠」としたのも、この理由からだ」と述べています。

以上のことから、尽誠学園の建学の精神は、至誠を尽くさせるという人格教育を根本において、知・徳・体の全人教育を行い、国家・社会に役立つ人間を育成することであると言えます。これをさらに要約した言葉で表すとすれば、「誠を尽くす」あるいは「誠」の一文字になります。

「誠」という言葉は、儒学の基本文献のひとつである「中庸（ちゅうよう）」のキーワードです。中庸の一節に「誠は、天の道なり。これを誠にするは、人の道なり。」（誠とは天の働きとしての窮極の道である。その誠を地上に実現しようと努めるのが、人としてなすべき道である。）という有名な言葉があり、学祖大久保彦三郎の恩師である三島中洲が「盡誠舎」という舎名を大変気に入ったと言われています。

本学園では、創立以来130余年の伝統の上に立って「愛 敬 誠」を建学の精神としています。我が国における陽明学派の祖と呼ばれる中江藤樹は、道徳の根本原理を「孝」という言葉で表しましたが、その本質は「愛 敬」であり、単に自分の親への孝養にとどまらない孝の本質だと説きました。

「愛」 全ての人に真心をもって親しむ

「敬」 上を敬い下を侮らない心をもつ

「誠」 人間に内在する良知（至誠）

この建学の精神に基づき、学生と職員の温かい真心のふれあいを通して確かな教育・指導を実践し、地域社会に貢献できる人材を育成していきます。



平成26年度

創立130周年記念ロゴマーク



3. 学校法人の沿革

年 度	沿 革
明治17年	大久保彦三郎、財田上ノ村に忠誠塾創立
明治20年	忠誠塾を京都市下京区に移し、盡誠舎と改称
明治25年	舎主病気のため盡誠舎閉舎
明治27年	盡誠舎を琴平東四條村に再興、中等普通科を教授
明治32年	盡誠舎を善通寺町大字生野の現在地に移転
明治38年	盡誠舎に女子部設置
明治39年	盡誠舎女子部を廃止し、静修女学校として分離独立
明治40年	大久保直廣舎主就任
明治43年	私立盡誠中学校設置認可により盡誠舎廃止
大正9年	盡誠中学校に改称
昭和19年	財団法人盡誠中学校認可、大久保直廣理事長就任
昭和22年	新制尽誠中学校開校
昭和23年	新制尽誠学園高等学校開校
昭和26年	学校法人尽誠学園認可
昭和39年	尽誠学園高等学校に女子部普通科設置
昭和41年	尽誠学園高等学校に衛生看護科設置
昭和42年	善通寺市に香川短期大学開学、家政学科設置
昭和43年	尽誠学園高等学校に商業科設置 新制中学校募集を一時停止し休校とする
昭和44年	善通寺市に香川高等看護学校開校、看護学科設置
昭和45年	香川短期大学に幼児教育学科設置
昭和46年	大久保紫朗理事長就任
昭和48年	尽誠学園創立90周年記念式典挙行
昭和49年	香川短期大学に幼児教育学科第Ⅲ部設置、従来の幼児教育学科を幼児教育学科第Ⅰ部と改称
昭和58年	尽誠学園創立100周年記念式典挙行
昭和62年	香川短期大学に経営情報科設置
平成元年	香川短期大学を善通寺市から宇多津町に移転 善通寺市に香川短期大学附属女子高等学校開校（～平成10年3月）
平成7年	高松市に香川誠陵中学校開校
平成10年	高松市に香川誠陵高等学校開校 尽誠学園高等学校に福祉科設置 香川看護専門学校を香川看護福祉専門学校に改称、看護学科と福祉学科を併設
平成12年	大久保直明理事長就任
平成14年	宇多津町に香川短期大学附属幼稚園開園 香川看護福祉専門学校を香川看護専門学校に改称、介護福祉学科を香川短期大学へ移設
平成15年	香川短期大学に専攻科（福祉専攻）設置
平成17年	香川看護専門学校に第1看護学科と第2看護学科を併設
平成20年	香川短期大学幼児教育学科第Ⅰ部を子ども学科第Ⅰ部に改称 香川短期大学幼児教育学科第Ⅲ部を子ども学科第Ⅲ部に改称
平成25年	尽誠学園高等学校福祉科募集停止
平成26年	尽誠学園創立130周年記念式典挙行
平成29年	香川短期大学専攻科（福祉専攻）廃止
令和2年	香川短期大学附属幼稚園を認定こども園香川短期大学附属幼稚園に改称

4. 設置する学校・学科等

学校名	所在地・学科等	
香川短期大学	所在地	〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10
	連絡先	電話) 0877-49-5500 FAX) 0877-49-5252
	学科等	生活文化学科・子ども学科第Ⅰ部・子ども学科第Ⅲ部・経営情報科
	学長	加野 芳正
尽誠学園高等学校	所在地	〒765-0053 香川県善通寺市生野町855-1
	連絡先	電話) 0877-62-1515 FAX) 0877-62-0586
	学科等	普通科・商業科・衛生看護科
	校長	白井 良尚
香川誠陵高等学校	所在地	〒761-8022 香川県高松市鬼無町佐料469-1
	連絡先	電話) 087-881-7800 FAX) 087-881-7878
	学科等	普通科
	校長	光田 大介
香川誠陵中学校	所在地	〒761-8022 香川県高松市鬼無町佐料469-1
	連絡先	電話) 087-881-7800 FAX) 087-881-7878
	学科等	普通科
	校長	光田 大介
認定こども園 香川短期大学附属幼稚園 (令和2年4月から名称変更)	所在地	〒769-0208 香川県綾歌郡宇多津町浜八番丁113-2
	連絡先	電話) 0877-41-0500 FAX) 0877-41-0510
	学科等	満3歳児・3歳児・4歳児・5歳児
	園長	廣瀬 三枝子
香川看護専門学校	所在地	〒765-0053 香川県善通寺市生野町920-1
	連絡先	電話) 0877-63-6161 FAX) 0877-56-5321
	学科等	第1看護学科・第2看護学科
	校長	横山 重子

5. 学校・学科等の学生生徒数の状況

(令和元年5月1日現在)

学校名・学科等		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
香川短期大学	生活文化学科	90名	70名	180名	141名
	子ども学科第Ⅰ部	60名	55名	120名	108名
	子ども学科第Ⅲ部	40名	37名	120名	117名
	経営情報科	60名	67名	120名	141名
尽誠学園高等学校	普通科	240名	172名	720名	550名
	商業科	40名	15名	120名	55名
	衛生看護科	80名	31名	240名	90名
香川誠陵高等学校	普通科	200名	122名	600名	334名
香川誠陵中学校	普通科	200名	77名	600名	196名
香川短期大学附属幼稚園	満3歳児～5歳児	45名	46名	150名	140名
香川看護専門学校	第1看護学科	40名	45名	120名	134名
	第2看護学科	40名	35名	80名	77名
合計		1,135名	772名	3,170名	2,083名

6. 役員の概要

(令和元年5月1日現在)

項目	定員	氏名 (50音順)	就任年月日	区分	職業等
理事	7名	大久保 直 明	昭和56年 5月30日	常 勤	学校法人尽誠学園理事長
		大久保 三加津	平成16年 5月20日	常 勤	社会福祉法人尽誠福祉会理事長
		白 井 良 尚	平成29年 5月28日	常 勤	尽誠学園高等学校長
		多田羅 慶 子	平成31年 2月22日	非常勤	(株)三幸商会代表取締役
		平 川 淳	平成31年 4月 1日	非常勤	(株)経営政策研究所代表取締役
		光 田 大 介	平成31年 4月 1日	常 勤	香川誠陵中学校・高等学校長
		吉 田 匡	昭和59年 5月26日	非常勤	吉田内科医院長
監事	2名	田 山 棟 信	平成21年 5月28日	非常勤	元尽誠学園高等学校長
		林 野 忠 弘	平成21年 5月28日	非常勤	善通寺市議会議員

7. 評議員の概要

(令和元年5月1日現在)

項目	定員	氏名 (50音順)	就任年月日	職業等	備考
評議員	15名	大久保 直 明	昭和56年 5月30日	学校法人尽誠学園理事長	理事兼
		大久保 直 幸	平成29年 5月28日	香川短期大学講師	
		大久保 三加津	平成18年 5月25日	社会福祉法人尽誠福祉会理事長	理事兼
		加 野 芳 正	平成31年 4月 1日	香川短期大学長	
		草 薙 昭 典	平成15年 1月15日	尽誠学園高等学校同窓会顧問	
		齊 藤 栄 嗣	平成30年 5月25日	香川短期大学副学長	
		清 水 年志子	平成31年 4月 1日	社会福祉法人尽誠福祉会のぞみ保育園長	
		高 島 美代子	平成31年 4月 1日	香川短期大学総務部長	
		玉 置 忠 徳	平成14年 5月16日	香川短期大学副学長	
		土 井 茂 樹	平成21年 5月28日	学校法人尽誠学園本部事務局長	
		平 川 淳	平成31年 4月 1日	(株)経営政策研究所代表取締役	理事兼
		廣 瀬 三枝子	平成20年 5月29日	香川短期大学附属幼稚園長	
		松 本 豊 胤	平成10年 5月22日	公財)琴平海洋会館評議員	
		宮 武 正 司	平成21年 5月28日	大念寺住職	
		横 山 重 子	平成29年 5月28日	香川看護専門学校長	

8. 教職員の概要

(令和元年5月1日現在)

学 校 名	教 員			職 員			合 計
	本務	兼務	計	本務	兼務	計	
香 川 短 期 大 学	47 名	62 名	109 名	19 名	8 名	27 名	136 名
尽 誠 学 園 高 等 学 校	60 名	9 名	69 名	14 名	1 名	15 名	84 名
香 川 誠 陵 高 等 学 校	29 名	6 名	35 名	10 名	8 名	18 名	53 名
香 川 誠 陵 中 学 校	19 名	6 名	25 名	4 名	1 名	5 名	30 名
香川短期大学附属幼稚園	14 名	14 名	28 名	3 名	3 名	6 名	34 名
香川看護専門学校	16 名	83 名	99 名	5 名	3 名	8 名	107 名
法 人 本 部	0 名	0 名	0 名	5 名	1 名	6 名	6 名
合 計	185 名	180 名	365 名	60 名	25 名	85 名	450 名

II. 事業の概要

1. 令和元年度事業

香川短期大学事業概要 (1/3)

1. 教育方針

香川短期大学は、生活文化学科（食物栄養及び生活介護福祉の2専攻課程）、子ども学科第Ⅰ部、子ども学科第Ⅲ部、経営情報科の4学科の構成である。在学中に栄養士・保育士・幼稚園教諭二種、の資格・免許や医療事務、司書資格、介護福祉士国家試験受験資格等を取得できるようにカリキュラムを編成している。また、「愛敬誠」の建学の精神に則り、幅広く深い教養を培い自主・自立の精神を養うとともに、豊かな人間性を涵養し、それぞれの専門とする分野の知識と技術の向上を図って、地域社会に貢献できる人材を養成、さらに、産官学連携・地場産業の振興支援や子育て支援、国際交流等、大学COC（center of community）機能を強化、地（知）の拠点として地域社会から国際社会までを志向した教育・研究・社会貢献を目指す。

2. 事業報告

(1) 学則の変更及びカリキュラムの改革

【学則】①学則第56条に「外国人長期履修留学生」の卒業要件を追加した。

【カリキュラム】

- 共通科目：外国人長期履修留学生を対象に、専門教育科目を学ぶために必要な日本語能力の向上を目的として、共通科目の卒業要件に「日本語科目」4単位を追加した。
- 子ども学科第Ⅰ部・第Ⅲ部：法改正に伴い開講科目を変更した。具体的には「科目の新設」4科目、「科目の名称変更」4科目、「科目の名称変更及び単位数変更」3科目、「科目の名称変更及び区分の変更」2科目、「科目の名称変更及び記載順変更」1科目、「科目の単位数の変更」1科目、「科目の区分変更」2科目、「科目区分の削除」1区分、「科目の記載順変更」2科目、「科目の廃止」6科目であった。
- 経営情報科：「映像制作演習（2単位）」を廃止し、「映像制作演習Ⅰ（1単位）」及び「映像制作演習Ⅱ（2単位）」を新設した。また、司書資格取得のための「乙群（選択科目）」の科目を増やし、学生に幅広い選択肢を与えるために「図書館総合演習（1単位）」を新設した。
- 子ども学科第Ⅲ部の入学金を200,000円から240,000円に変更した。

(2) 自己点検・評価等の実施

- ① 自己点検評価報告書の作成及びエビデンスの整理を行い、一般財団法人短期大学基準協会による認証評価を受審した。結果については、平成17年度、平成24年度の的確認定に続き、令和元年度においても適格と認定された。
- ② 香川短期大学教育推進協議会（外部評価）を2020年2月17日に開催し、提案された意見を本学の運営に反映させることになった。
- ③ 「学生による授業評価」、「学生生活実態調査」の調査を行い、学生生活の満足度とその要因を分析した。従来通り、この結果を個々の授業や大学運営に活用するところとなった。

(3) 職員研修（教員、事務職員）

- ① 四国地区教職員能力開発ネットワーク（SPOD）に加盟し、そのプログラムとして他大学より講師を招聘し（2019年6月4日）、研修会を実施した。また、8月下旬に愛媛大学で開催された「SPODフォーラム2019」（8月29日～31日）には本学からも複数名が参加した。
- ② ・学内でのFD・SD研修は、研究倫理、カリキュラムマップの検討、ハラスメント等をテーマに実施、ほとんどの教職員が参加した。

- ・本学も会員校である「大学コンソーシアム香川」では、他大学と連携して「私立大学等改革総合支援事業タイプ3」に応募したものの、わずかに点数が不足し不採択であった。しかし、他大学との連携協力が進んだことは、次につながる成果である。
 - ・協定締結校である帯広大谷短期大学、鳥取短期大学に加えて高松短期大学との4校で、2020年9月ごろを目途に「短期（共同）プログラム」を開催することで合意した。
 - ・法人内の研修の企画と立案については実行できなかった。
- ③ 学会及び各種研修会等への参加については、各教員が積極的に参加した。また、事務職員の各種研修会への積極的な参加を促した。

3. 継続実施事業及び今後の検討課題

(1) 将来構想（大学組織改革、グランドビジョン作成等）の検討

私立学校法が改正され、中期計画が義務化されたこともあり「香川短期大学中期計画（令和2～令和6年、令和7～令和8年）を作成した。① 香川短期大学アイデンティティの構築に関する目標、② 教育に関する目標、③ 研究に関する目標、④ 地域貢献に関する目標、⑤ 人事・財務・組織運営に関する目標、に関連して74の項目を計画した。

(2) 高大接続の強化と学生数の確保に繋がる施策と制度の充実

香川県若者県内定着促進支援補助金（平成31年度）を活用して「お弁当の日甲子園プロジェクト」「保育出前講座プロジェクト」「福祉の出前講座プロジェクト」等を精力的に実施した。

令和2年度の入学生は227名であったが、その内県内出身者は199名（86.7%）であった。

(3) 大学間連携（帯広大谷短大・鳥取短大）の推進（単位互換、交換内地留学制度、学術交流等）

認証評価に関わる事前調査で、本学の10名が鳥取短大を訪問した。また、鳥取短大はすでに「採用労働制」を取り入れているところから、このことについての訪問調査を実施した。帯広大谷短期大学には学生の交換留学や単位互換制度をテーマとして2度訪問し、令和2年度にはそれぞれが短期プログラムを開催することとなった。

大学祭では、帯広大谷短期大学の大学祭に本学の学生が、本学の大学祭に帯広大谷短期大学の学生が参加するなど、学生の交流が図られた。

(4) アクティブラーニング学習環境の整備、施設・設備の改修等

講義室を中心に映像システムの刷新と統一を図った。また、食物栄養棟調理実習室をリニューアルし、新しい調理実習室は学生が実習しやすい広さが確保された。前年度に続き、トイレの改修、学習環境の整備に努めた。

(5) 学生カルテによる学生支援の充実と学生募集への具体的活用を検討

学務システムによる学生カルテ（学習ポートフォリオ）の充実及び各部局等との情報の共有を進めた。

(6) 国際交流の推進（海外の交流協定締結大学と単位互換による短期留学事業を推進）

中国江南大学文化・学術研修を行い（9月17日～7日間）、学生10名、教員3名が参加した。2月に予定していた中国蘇州工業園區職業技術学院との交流は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止した。9月に実施したインドネシア研修には学生3名、教員1名が参加した。また9月にはポーランドのカトヴィツェ美術大学のアルトゥル・マステルナク准教授が国際文化交流を目的に来日し、本学を拠点に滞在制作を行った。

(7) 大学ポートレートの徹底、あらゆるメディアを活用した情報発信の強化及びHP等の充実

香川短期大学事業概要 (3/3)

修学支援新制度の対象機関として認定されるために、また、補助金獲得にも関連して、大学の財務状況、学校法人の役職者を含めた大学情報の公表（大学ポートレート）を進めた。

(8) 外部資金等の獲得（「地域創生事業」「科研」「特別補助」「寄附金」「事業収入」等の検討）

令和元年度の特別補助は、社会人の受入れと留学生の受け入れに関連して、603万円程度であった。戦略的な大学運営が強く求められるところである。科学研究費補助金については、研究分担者としての配分が30万円程度であった。令和2年度の科学研究費補助金への申請件数も2件を数えるのみであった。科研費申請にチャレンジし、採択に繋げるためには何らかのインセンティブが必要ではないと思われる。

(9) 大学COC機能の強化（大学と地域（産・官・学・民）との包括協定締結による連携の強化／生涯学習事業及び社会の知的基盤とした教育・研究・社会貢献の推進）

令和元年度は新たに多度津町との間に「包括的連携・協力に関する協定」を締結し（8月21日）、また、香川テレビ放送網株式会社との間にも「包括的連携・協力に関する協定」を締結した（2020年2月27日）。特に民間会社との協定締結は初めての試みであった。1月20日にはメディア関係者との間で懇談会を開催した。宇多津との連携で数多くの公開講座を開催したが、一部は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止となった。

(10) 地震防災・減災対策の推進（県・宇多津町等防災・減災対策の具体化及び備蓄等の整備）

3月2日に宇多津町との間で「緊急避難場所に関する協定書」を締結する予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から次年度（5月頃）に延期した。なお、経済産業省から「災害時における生活環境の確保に資する天然ガス利用設備導入支援事業費補助金」に応募する予定であり、これが採択されれば災害時における避難場所としてさらに大きな力が発揮できるものと期待される。

尺誠学園高等学校事業概要 (1/3)

1. 教育方針

教育目標は、校訓「愛 敬 誠」を実生活の中で実践し、社会に貢献し得る人材および人格の優れた人物を育成することである。徳育・智育・体育のバランスのとれた全人教育を行い、生徒一人ひとりの個性と可能性を生かす教育を目指している。このため、教職員が一体となって「建学の精神：有用の真士の育成」に基づいた人間教育を行い、生徒や保護者に対して、本校の特色や存在意義を理解してもらえよう努力する。

教職員が校訓「愛 敬 誠」の意味を理解し、「徳を養い 智を磨き 体を錬る」に努め、率先して実践することが目標の実現に不可欠と考えている。生徒それぞれの目標や個性及び可能性を重視し、科・コースごとの目標を明確にして生徒の学力を高め、心身の健全育成をはかり、豊かな情操と高い教養の習得等によって、卒業後の進路を保障することを目指す。

2. 事業報告

(1) 教職員

- ① 教職員の資質向上を図るため、県教育委員会主催の研修会・研究会等に参加した。また、ICT利用について自主的に研修に参加する教員が増えた。
- ② 教職員の資質向上を図るため、各種現職教育を実施した。
 - 人権・同和現地研修会（5月実施）
 - ロイロノートonline研修会（5月実施）
 - ICT現職教育（7月実施）、平井聡一郎氏の講演（12月実施）等

- ③ 授業の充実向上のため、各教科における指導法の研究や研究授業を8回実施した。また、教員相互の授業参観を実施し授業力の向上を図ったほか、試験問題検討会を2回開き、問題の質の向上と平均点を配慮した構成を検討した。
- ④ 生徒指導においては教職員の共通理解を図り、文化祭・体育祭などの学校行事や全校集会・学年団集会等に協働して取り組んだ。
- ⑤ 保護者との連携については、担任を中心に家庭訪問や電話連絡を積極的に行い、学年主任や副校長・教頭がサポートして保護者の理解や支援を得るよう取り組んだ。

(2) 生徒

生徒の自主性・主体性を重んじ、生徒自らボランティア活動・検定等資格試験に挑戦した。また、文化祭・体育祭等の学校行事にクラスの団結を強めながら積極的に取り組んだ。

- ① 朝の登校指導で教員から挨拶をし、毎月頭髪服装検査を実施した。
- ② 進路学習会を県内各大学、香川短期大学、穴吹専門学校、公共職業安定所を招き、4回（3年生対象2回、1・2年生対象2回）実施した。また、公共職業安定所職員を招き面接指導を実施した。大学の合格状況については尺誠塾を充実させ、個別指導に重点をおいた指導、スタディサブリの活用で、神戸大学、大阪市立大学、電気通信大学、都留文科大学、岩手大学、新潟大学、岡山大学、香川大学、香川県立保健医療大学を始め、国公立大学13名合格という結果につながった。また私立大学も明治大、法政大、関西大、同志社大など難関私立大学に合格者が出了。特に立命館大には延べ17名が合格した。

就職については2年連続で就職内定率100%を達成し、公務員の合格者は7名となった。

- ③ ボランティア活動では、生徒有志や衛生看護科生徒及び太鼓部・吹奏楽部・応援部等の部員が中心となって49か所の病院・福祉施設慰問や公的機関の諸行事（中学校・街頭募金活動・地域のイベント等）に参加した。学級単位では、学校近隣清掃奉仕（香川県さわやかロード認定）を実施した。また、JRC部が中心となって行った献血運動では、生徒87名、教員32名、合計119名が献血を行った。
- ④ 各種検定試験3級以上及び国家資格等に238名が合格した。内訳は、英語検定18名、漢字検定9名、数学検定6名、硬筆検定43名、簿記検定12名、ビジネス文書実務検定34名、情報処理検定11名、珠算・電卓実務検定16名、救急法31名、赤十字健康生活支援員認定試験31名、准看護師試験27名（全員合格）の成果を収めた。
- ⑤ 国際交流語学研修では、令和元年7月27日～8月4日の9日間、フィリピンセブ島の語学研修に15名（引率教員含む）が参加した。英語の研修だけでなく、出発前に全校生から古着を集め、ストリートチルドレンに手渡すボランティア活動もおこなった。
- ⑥ 部活動では、運動部と文化部あわせて9つの部が香川県の代表として全国大会に出場した。男子ソフトテニス部が全国高校総体で団体・個人戦の両部門で優勝したほか、銃剣道部も全国高校生大会男女個人戦の部で優勝した。また、バスケットボール部が全国高校総体でベスト16入り、男女卓球部、陸上部、剣道部もそれに続いた。選抜予選では、男女ソフトテニス部、男子卓球部、剣道部、そして野球部が地区大会で優勝し、選抜大会出場を決めたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、すべての大会が中止という大変残念な結果となった。

(3) 安全管理

- ① 保健便りを定期的に発行し、感染症の予防方法についてHRで周知した。
- ② 事故防止対策として、校内・校外巡視、交通安全指導（合同補導・自転車点検）を行った。
- ③ デジタル湿度計を教室や部活動の場所に設置するなど熱中症対策を行った他、雷警報器を体育科及び屋外活動の部活動に配布（平成26年度）し安全に努めた。
- ④ 全職員が管理担当区域の定期的点検を行い、危険・破損箇所がないか確認した。
- ⑤ 建設工事の作業内容を確認し、担任を通して生徒に危険箇所や工事車両への注意を喚起した。

⑥ 新型コロナウイルス感染症対策として、三密の回避や手洗い、うがい、マスクの着用などを徹底した。また、式や集会ではICT環境をフルに活用して、会場を分散し、感染リスクを減らした。3月2日より感染防止のため、臨時休業の措置をとった。

(4) 施設環境

① 全教室への電子黒板設置が完了した。タブレットも合計導入数が200台となり、Wi-Fi環境の整備も順調に進んだ。

② 第2特別教室棟（図書館棟）が完成し、蔵書の移動を行い、貸し出し業務のための準備中である。

(5) 生徒募集

① 8月21日に進学連絡会を開催。

② 8月21日に第1回オープンスクールを実施し、472名の中学生が参加した。

11月16日に第2回オープンスクールを実施し、198名の中学生が参加した。

中学校訪問、中学校主催進学説明会に副校長を中心に各地区募集担当が行い、本校の入試や学校の特色を説明した。

③ 入試志願者数と入学者数

1月に行ったA日程入試（特別進学コース・衛生看護科推薦入試）の志願者は730名（前年度730名）、B日程入試の志願者は984名（前年度1,044名）であり、志願者総数は1,714名（前年度1,774名）となった。令和2年度入学者は235名であった。

1. 教育方針

中高一貫教育を通して、生徒一人ひとりの夢を育み、その実現のために個性を尊重し、能力に応じた効果的な指導を行う。

中学1・2年では基礎学力の定着と学習習慣の確立をめざして生徒を育てる。中学3年、高校1・2年では基本から応用へと演習を通して生徒を鍛える。高校3年では総まとめとしての演習等を通して大学進学のための実力練成を図る。さらに、国際社会の一員としての自覚を高め、人を思いやる心、自然を愛する豊かな心を重んじ、進んで公共のために尽くす行動力のある人間の育成をめざす。

2. 事業報告

(1) 生徒の育成

① [生活や学習の実態把握] 6月と11月に調査を実施して、結果を全教員で共有した。

② [学校行事] 特別活動部の担当で、体育祭、誠陵祭、合唱コンクール（中学）を実施した。また、学年団や教科の担当で、臨海学習（中1・小豆島）、修学旅行（中2・東京方面、高1・北海道）、小笠原流礼法指導（中1）、ゆかた着方教室（中3）、百人一首大会（中学）、地域清掃（中1）、保育体験（中3）を行った。オーストラリア研修旅行（中3）とカナダ研修旅行（高1）については、新型コロナウイルス感染症の流行のため中止した。

③ [人権・同和教育] 年間を通じて計画的なテーマ設定のもとでLHRを実施した。

④ [防災・安全教育等] 土砂災害対応避難訓練（7月）、地震対応避難訓練（11月）、火災対応避難訓練（12月）を実施し、いずれも、講話により防災意識の高揚を図った。また、情報モラル・セキュリティ講演会（6月）、献血セミナー（9月・県血液センター職員）、喫煙防止出前講座（中学・9月）、サス学出

前授業（中2・10月）、性教育講演会（全校生・10月）、SDGs教育出前授業（中学・11月）を開催し、安全や健康等に関する啓発とした。

⑤ [部活動] 運動部（11）、文化部・同好会（8）が活動した。成績としては、中学柔道部個人となぎなた部が四国大会に出場した。

（2）学習指導と進学指導

① [学力向上] 放課後「平日講習」「夜講」「夜独」「夏期講習」「春期講習」等を実施した。また、高2生の希望者に対して8月に2泊3日の夏期学習合宿を実施し、長時間の学習を集中的に行う体験をさせた。

② [英語の学力・技能向上] 「オンライン英会話」を、中1～高2生について、週1回英語の授業で実施した。また、ボキャブラリコンテスト（中学2回）を実施した。外部検定として、実用英語技能検定（年3回、1次合格者には2次対策の指導）、TOEIC、TOEFLを校内で受検できるようにした。成果として、英検の級取得者が、中学生が2級5名、準2級32名、高校生が2級98名となったことが挙げられる。

③ [漢字検定・数学検定の受検推奨] 校内で、日本漢字能力検定（年3回）、実用数学技能検定（年3回）を実施。数学検定は2級に中3生1名、高2生6名が合格した。

④ [入試直前指導] 高3生を対象に、センター直前対策演習（1/7～1/7）、個別試験に向けた入試対策講習（1/22～3/6）を実施した。

⑤ [進路意識高揚と進路選択に係る指導] 進路LHRを段階的に各学年で実施した。5月に「19期生合格体験記」を全生徒に配布した。3月に齋藤孝先生の講演会を実施した。

⑥ [進路指導情報の共有] 4月に「大学入試報告会」を実施し、前年度高3生の大学合否結果に基づき、生徒の学力状況や進学指導の適切さについて分析した。7月、12月、1月に「進路検討会」を実施し、高3生全体の状況分析、個々の生徒に対する指導等について協議した。

⑦ [大学入学共通テストへの対応] 新学習指導要領下で「情報」が必須化される可能性を踏まえ、中2生対象に校外機関でプログラミング教室を実施した。

⑧ [大学入試の結果] 合格数は、国公立大が、大阪大1・香川大15など合計で52（昨年度51）であった。私立大が、早稲田大2・慶應大1・同志社大6・立命館大12・関西学院大10などであった。

（3）広報活動と入試

① 「夏の体験入学」（小5・6）、「中学オープンスクール」（10回）、高校オープンスクール（6回）、中学教員対象説明会（2会場）、塾教員対象説明会を実施した。各中学校主催の学校説明会にも参加した。

② 広報担当教員・管理職が県内外の中学校・塾、県内の小学校を訪問した。

③ 新聞の折込み広告、高松市及び中讃地区の広報誌に「夏の体験入学」等の案内を掲載した。

④ [中学校入試の結果] 「夏の体験入学」申込者数（小6生）は114（前年度165）、推薦・前期入試出願数は88（前年度108）、県外入試出願数は1006（前年度1042）、後期入試出願数は16（前年度9）で、入学手続き者は82（前年度87）であった。最終的な入学者は77名（前年度77名）となった。

⑤ [高校入試の結果] 出願者数は996（前年度1040）、受験者数は992（前年度1035）で、入学者は65名（前年度56名）となった。

（4）五色寮

① 寮内の親睦を図るために、花火大会（7月）、校外学習（10月）、餅つき大会（12月）、特食（4回）を実施した。

② 夜間学習時に香川大学医学部生のチューターや有志教員による学習指導を行った。

③ オープンスクール等での寮見学や在校生対象の体験入寮を実施した結果、令和2年度は12名（中1生10名、高1生2名）が新たに入寮予定となった。

(5) 教員の資質向上

- ① 各教科で研究授業を実施するなど、授業改善に向けた取り組みを行った。
- ② 救急救命講習を5月に、ICT研修を7月に、ネット依存・ゲーム障害に関する講演会を2月に全教員を対象に実施した。
- ③ 予備校が主催する教育研究セミナーに延べ7名が参加し、教科指導力の向上に努めた。
- ④ 各教科の教員にセンター試験及び東大・京大の入試問題の解答作成と研究を課した。

(6) 施設設備・スクールバス・防災安全対策等

- ① 「オンライン英会話」を普通教室で実施できるようにタブレットを購入し、無線LAN(Wi-Fi)の設置工事を行った。
- ② 老朽化したスクールバスを1台更新した。
- ③ ガラス飛散防止フィルム貼付の施工と備蓄品の購入・貯蔵を計画的に進めた。
- ④ 卒業記念品として、生徒昇降口上の学校名看板を新調した。

3. 課題

- ① 難関大合格者を増やすために、さらに優秀な教員の退職防止と採用が必要である。
- ② 激減した「夏の体験入学」への参加者数を増加に転じなければならない。
- ③ 昨年度末から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、塾訪問、オープンスクール、夏の体験入学、入学試験などの生徒募集関係の活動が制限されるので工夫が必要である。
- ④ 感染症など登校できない事態に備え、オンライン授業が可能な環境整備が必要である。
- ⑤ 古いスクールバスの買い替えと運転手の確保を進めなければならない。

1. 教育方針

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。学校教育の始まり場として位置付けられる幼稚園では、乳幼児期の遊びを中心とした教育のあり方を追求し続けなければならないと考える。本園では、尽誠学園グループにおける建学の精神「愛 敬 誠」を幼児に分かりやすい言葉に置き換え、日常の保育の中で培い心身共に調和のとれた幼児の育成を目指す。

子どもが遊びを通して主体的な学びを深めることが問題解決型学習の育ちや非認知的能力の根幹に関わることを踏まえて、教職員が連携して最適な環境をつくりだし教育・保育の質の向上に努める。

2. 事業報告

(1) 短大及び尽誠学園グループとの連携

香川短期大学子ども学科生、香川看護専門学校生、尽誠高校看護科生の実習を行い、保育を通して幼児期の子どもたちとの触れ合いからの学びを深めることができた。尽誠音楽祭も10月の開催となったが、ヴァイオリン演奏や合奏を堂々と大舞台で経験できた。特養謙之丞の丘の誕生会に年中組、年長組が参加して触れ合いを楽しんだ。のぞみ保育園との交流では、顔を覚えて笑顔で話せることもでき、就学後のコミュニケーションにも繋がる活動となった。

(2) 地域に開いた様々な交流活動(子育て支援、次世代交流、小学校接続連携、COSMOS活動)

香川短期大学附属幼稚園事業概要 (2/2)

未就園児親子の「すくすく教室」では、80名を超える沢山の親子の登録を受け、体操教室、エンジェルコンサート、ベビーマッサージ教室、アドラー心理学の子育ておしゃべり会、人形劇「三枚のお札」、アフリカン音楽、作品展での大道芸を開催した。就学支援として宇多津町と連携した交流活動や幼小連携も実施した。今後も子育て支援活動の充実に努めていきたい。

(3) 教育・保育環境の改善及び整備

砂場周辺の水遊び環境に、手漕ぎポンプの井戸（疑似）を設置して主体的な遊びが広がる空間を設置した。預かり保育時間の英語教育として教具を導入し、お昼寝のない年長組は主に親しんだ。

英語活動の充実に向けては、誠陵高校からエイドリアン先生が毎週金曜日の午前中に保育に関わり、生の英語に親しめる環境ができた。食育活動では、土づくりから始めて、無農薬の安全な食物を栽培していく過程とクッキングを楽しみ「健康的な食」の体験を通した学びの場となった。

(4) 教職員の教育・保育の資質の向上

香川県私立幼稚園連盟主催の研修会などに、短時間勤務の先生方にも参加を促し学びを共有し合うようにした。預かり保育の時間を確保しながらの研修参加のため、回数は少ないが、積極的に参加をしている。園内研修で外部講師の先生の指導を受ける時にも、短時間勤務の先生方全員が参加する研修会を設けた。

I C T化では、保護者との双方向のメール配信、登降園管理システム等を開始した。保育中にP Cでクラス全員の連絡内容を確認できることから、伝達ミスが減り正確な記録と保護者理解にも繋がり、信頼関係の構築に役立っている。2月には、鳴門教育大学の藤村裕一先生からも指導を受け、保育におけるI C Tについて学ぶ機会を得た。これからもI C Tを活用した主体的・対話的で深い学びにつながる保育の在り方を考えていきたい。

(5) 安全環境

防犯、防災に向けたトランシーバーを導入し、行事でその場から離れられない時など、トランシーバーを活用して遠くからやり取りをすることで安全に連携をとる体制がとれるようになった。I C T化教育に向けてW i - F i 環境やインターネットセキュリティ環境の整備を実施した。今後も管理体制の強化を図りたい。

(6) 保護者との連携（2020年度認定こども園への移行を踏まえた取組を含む）

次年度に認定子ども園へ移行するために、保護者説明会を実施し理解を得ながら計画通り順調に、香川県健康福祉部子ども政策推進局子ども家庭課から指導を受けて3月末に認定を得た。今後は、これまで以上に子どもたちのより良い教育・保育の実践と子育て支援に取り組んでいきたい。

保護者会活動では、就労家庭が多くなってきていることから様々な運営の仕方を見直して参加しやすく楽しんで保護者会活動を実践できるように改善してきた。今後も保護者と連携してワンチームで様々な活動を計画していきたい。

香川看護専門学校事業概要 (1/2)

1. 教育方針

次の教育方針を通して、社会の要請に応える有用な人材を育成する。

(1) 尽誠学園の建学の理念である「愛 敬 誠」を基に、専門職業人、社会人としての人間性を涵養する。

(2) 専門職業人としての基礎的実践能力を育成する。

自ら学び、考えることを通して、看護の根拠となる科学的知識に裏づけされた知識・技術を駆使して看護活動を展開する実践能力を養う。

2. 事業計画

1) 教育について

(1) カリキュラムの見直し

国の医療保健福祉政策において、「地域ケアシステム」の構築が推進されている。これに対応して厚生労働省は看護教育のカリキュラム改正が9月ごろ提示された。このカリキュラム改正に備え、地域ケアシステムに係るカリキュラムの見直しを引き続き行う。講義要綱・実習要綱については、2017年に大幅に修正した。その後継続して学生が意欲を高め理解できるように要綱内容の深化を図っていった。

(2) 教員の資質の向上

質の高い実践的な職業人を育成する目的で、学校教育法を一部改正する法律案を提示した。専門職大学の制度化は、看護大学はじめ専門学校の看護教員の「教育の質の確保」が求められている。これに応えるために教員の資質の向上を図る必要がある。FD研修を今以上に奨励する。今年度は15%増を目指していたが、45%の大幅の増となり、教員の変容が見られつつあるといえる。研究においては、学会で2名が研究発表をおこなった。

(3) 国家試験対策

令和元年2月に実施された第109回国家試験では、「地域包括ケアシステム」に関連した、在宅にシフトした現場レベルの問題が多くだされ、学生にとっては難問が見受けられた。不合格の学生は、1看は2名(94.2%)、2看は1名(97.2%)であった。これを踏まえ「地域包括ケアシステム」にシフトした在宅関連や精神的支援に関する問題への、教育指導が一段と求められる(全国平均89.2%)。

2) 運営について

(1) 「高等教育段階の教育費負担軽減」の申請

文部科学省は、「高等教育段階の教育費負担軽減」の申請確認を行い、シラバスや、適正な成績管理の方法について取り組む。なお、申請は受理され、在校生への説明も実施した。

(2) 「学校評価」

① 「自己評価」の継続と平成30年度の自己評価の結果関係者の分析・解釈から、足りない領域(研究・学生支援のシステム)などへの対策の検討と実践を行った。また、「学校評価」に向けての準備と整備を行った。

② 「学校関係者評価」を実施(2/21・委員長:香川大学 清水教授)教育に関しては教員の質の向上、教育内容について、令和4年にむけてのカリキュラム改正に活かすことにした。

(3) 図書館建設とそれに伴う職員室を含めた現図書室の有効活用計画の取り組み

(令和2年9月に工事等終了予定)

(4) 広報活動

本校の特色として打ち出した3点(①ファーストレスポnder・BLS研修、②最短で看護師国家試験受験を得る。マンツーマンで学生指導にあたる。③他校との連携・協力を強化する)については、国家試験受験そして合格に向けてさらなる強化が求められる。他校との連携・協力は、リハビリテーション学院との連携を引き続き継続・深化していく。

学校訪問については、准看護学院の訪問を平成30年に比して、3~4倍の頻度で訪問した。このことは、1看・2看ともに学生定数を確保できた要因の一つと捉えている。その他、インターネット、学校のホームページ、オープンキャンパスも、内容変更をしていった。

2. 中期的計画（基本目標と行動計画）

香川短期大学 基本目標と行動計画（令和2年度～令和8年度）（1/4）

I. アイデンティティの構築

地域社会にあって本学の認知度を高めるとともに香川短期大学らしさを打ち出し、地域から愛される香川短期大学を目指す。

- ・ 香川短期大学のアイデンティティを意識化する。そのためのキャッチコピー、ロゴマークを作成する。
- ・ 委員会活動、学科活動、個人活動を含めた「香川短期大学年報」を作成し、認証評価に備える。
- ・ 香川短期大学のガバナンス・コードを作成する。

II. 教育

学生一人ひとりの将来の希望や適性を見つめながらきめ細かい学生指導を展開し、豊かな人間性を涵養し、それぞれの専門とする分野の知識と技術の向上を図って、地域社会に貢献できる人材を育成する。

1) 教育課程・学習成果・内部質保証

- ・ 全学的な教学マネジメント体制において、I R情報を利用した教育課程の適切性について検証する。そのためにI R室を設置し、I R担当職員を配置する。
- ・ I R情報として新入生調査、卒業生卒業前調査、卒業生卒業後調査を各年度実施する。質問紙調査による授業内容等の改善点の可視化を図る。
- ・ 授業中のマナーを徹底し、勉学に集中できるように、教員が適切な指導を行う。
- ・ 「授業出席率」を高め、授業出席率90%以上を目指す。
- ・ アクティブ・ラーニング科目を拡大し、全授業の過半数にする。
- ・ S D G s（Sustainable Development Goals）の観点から教養教育プログラムの見直しを行う。また、専門教育についてもS D G sの観点から再検討を行い、専門教育と教養教育との連動を図る。
- ・ ティーチング・ポートフォリオを導入することにより自己の教育活動を検証し、主体的に教育の改善を図るとともに委員の教育業績の評価に活用することを検討する。
- ・ 教育推進委員会を「外部評価委員会」に改め、外部有識者との間で教育成果の中身や学修成果に関する情報について協議していく。

2) 学生支援の充実

- ・ サークル活動（運動サークル、文化サークル）を立ち上げ、個人技能や個性の伸長を図る。
- ・ 障がい学生の支援を充実させるため、学内規程を整備して「障がい学生就学支援規程」（仮称）を整備するとともに、障がい学生を主要な対象とした「キャンパスライフ支援センター」（仮称）を立ち上げる。
- ・ リメディアル教育を充実させる。そのためにI T C学習システムを導入するとともに、教師－学生間での「個別学習支援」と「学習相談窓口」を充実させる。
- ・ 現在開設している「教養講座」を「初年次教育」として再編成し、香川短期大学学生としてのアイデンティティを形成していく。
- ・ 「香川短期大学後援会学修助成金」を代替して、経済的理由により学費等の支払に困難を有し、かつ、勉学意欲が高いものを対象とした新たな奨学金制度「香川短期大学オリーブ奨学金」を創設する。
- ・ 学生が安心して学業に励むことができるよう、「初年次教育」等を活用することによって、消費者教育、学生アルバイト問題、性暴力への対処、多様な性の在り方、人権教育、等について学ぶ機会を拡大する。
- ・ 「大学づくり委員会」を設置し、学生と教職員が一体となって学び舎としての大学づくりを推進する。
- ・ キャンパス内での挨拶の励行、学生・教職員の身だしなみの向上、キャンパスの美化、を促進する。

3) 学生の受入（入試政策）

- ・ 一般入試において記述式問題を出題するとともに、募集要項等において記述式問題の出題の意図や評価すべき能力などを明示する。
- ・ 学力の3要素とされる「思考力・判断力・表現力」を評価するため、自らの考えを立論し、それを表現するなどの記述式問題を出題するとともに、それを募集要項等に明記する。
- ・ 高等学校教育と大学教育の連携強化に向けて、大学等における学修を高校生が経験する機会の提供、高等学校との年2回以上の定期的な協議、高等学校と連携した入学前教育、を実施する。
- ・ 同じ学校法人内にある尽誠学園高等学校からの入学者を増やす。そのための情報交換を定期的実施する。
- ・ 220&30（日本人学生220人、留学生30人の確保—数年後の目標）を目指し、メディア、インターネットなどを活用しつつ学生募集を強化する。漢学圏からの留学生を確保する。
- ・ 学生募集のためのホームページをスマホ対応に切り替えていく。

4) 学生の就職とキャリア支援

- ・ キャリア教育を進化させる。そのために初年次教育や各種資格の取得を充実させる。
- ・ 将来の希望する進路に応じたキャリア形成を実現する正課内外でのキャリア指導を充実させる。
- ・ 4年制大学への編入学を希望する学生を対象として個別の補習授業を推進していく。

5) 教育のグローバル展開（留学生を中心とした学生の受入と就職）

- ・ 地方公共団体、日本学生支援機構（JASSO）と連携しながら、また、キャリア支援センターが中心となって国内での就職を希望する留学生全員の就職を目指す。
- ・ 地元企業と連携して留学生全員がインターンシップに参加できるように、受け入れ先を確保する。
- ・ 宇多津町、坂出市、丸亀市、多度津町など近隣市町の国際交流活動に積極的に参加し、「地域との交流」「地域への貢献」を図る。その際、主催者側と協力して運営に参加するよう努める。
- ・ 香川短期大学周辺の住民の協力を得て、各家庭の日本文化を体験できる機会を提供する。
- ・ 災害時に支援が遅れてしまう外国人のために、災害時にあつては香川短期大学に学ぶ留学生が「災害時外国人支援ボランティア」として地域の外国人支援に携われるよう、また、災害時に通訳・翻訳として活躍できるよう、宇多津町と連携した教育訓練を実施する。

III. 研究

研究活動を活性化させ、それぞれの学科の特色ある研究を展開し、社会の諸課題の解決を志向した応用的研究を展開する。

- ・ 食物栄養、介護福祉、幼児教育や子ども学、情報教育、デザイン・アート等の分野で特色ある研究を展開する。研究成果を、『香川短期大学研究紀要』を初めとするジャーナルに積極的に投稿する。
- ・ 研究活動を活発化させ、外部資金を増やすために科学研究費補助金への申請件数を増やし、その結果としての採択件数を増やす。そのために、申請書類をブラッシュアップできるよう学内態勢を整える。

IV. 地域貢献

地域社会における「知」の拠点として地域のニーズに応えるとともに、蓄積された教育研究資源をもとに文化、福祉、生涯学習等に振興に寄与する。

- ・ 大学は地域の重要な資源であるとの自覚のもとに、中讃地域、西讃地域を中心に締結した自治体との連携・交流協定に基づいて、生涯学習、産学官連携、国際交流等を推進し、地域の活性化に貢献する。
- ・ 香川短期大学の教育研究内容（食物栄養、介護福祉、子育て、情報、アート・デザインなど）を反映した生涯学習講座を展開する。

- ・ 高松市との包括的連携・交流に関する協定を締結し、高松市との連携・協力を進めていく。
社会人等を対象とした学習機会の提供を促進するため、「履修証明プログラム」を活用した生涯学習事業を展開する。
- ・ 「大学コンソーシアム香川」を構成する大学として、県内の他大学等との連携強化に努める。また、鳥取短期大学、帯広大谷短期大学、高松短期大学との連携を強化するなかで単位互換や国内留学を展開していく。
- ・ 地域交流センターの役割について再検討し、事業内容、運営体制を見直して更なる充実を図る。

V. 人事・財務・組織運営

永続的な教育研究活動を維持するために、人事・組織、教育研究環境、財務基盤、危機管理等の分野において、健全で安定した運営を図る。

1) 教育研究環境の整備

- ・ 研究室、実験室、会議室、教室などの掲示板を刷新し、学生にとっても、外部にとってもわかりやすい案内として整備し、またイメージを一新する。
- ・ 政府からの補助金等を活用して、学舎の冷暖房を一元的にコントロールできるシステムに移行させ、省エネ性能に優れた、快適な教育研究環境を構築する。
- ・ 学舎の照明を計画的に電灯からLED照明に全面的に切り替える。
- ・ 子ども学科第Ⅰ部、第Ⅲ部の授業拠点としての「保育演習室」を計画的に整備し、本学の授業はもとより、オープンキャンパス、保育の実践的授業・実習、幼児教育の研究等に活用する。
- ・ 学舎が利用する食堂をさらに充実させ、利用する教職員、学生の満足度を高める。
- ・ 未改修のまま残っているトイレを計画的に整備し、利用者の満足度を高める。
- ・ 教職員の処遇改善を図る。

2) 財政基盤の強化

- ・ 学生募集の強化、外部資金（補助金等）の獲得、経費削減により財務基盤を強化する。そのことによって各年度の収支差額が10%以上になるよう努める。学生等納付金収入と補助金収入を中心とした帰属収入をいかに確保するかを常に検討し、安定した学校運営を継続していく。
- ・ 教員の人件費については設置基準に必要な人員を確保しながら職員の適正配置を行うとともに、柔軟な雇用制度を導入することで、総額の抑制に努める。数値目標として、ST比を改善していく。
- ・ 事務職員にあつては業務の効率化、組織のあり方、職員の適正配置、柔軟な雇用制度を導入して、総額の抑制に努める。
- ・ 予算編成時においては、学長、事務局長等と学科長等とのヒアリングによって事業の必要性や費用の妥当性について見直しを行い、また、当初予算の計画的執行と効率的な執行を進め、経費の削減と有効利用を図る。

計画の推進と点検評価、数値目標

本計画は7年を1期とする。計画の策定にあたり、「アウトプット評価」のみならず、学生の視点に立った点検・評価を実施するため「アウトカム評価」としての数値目標を導入する。数値目標としては以下の項目について行う。

・ 入学定員の確保	100%（250人）
・ 外国人留学生の確保（段階的に）	30人
・ 研究代表者として文部科学省科学研究費補助金への申請件数	5件以上
・ 科研費の採択数（研究代表者として）	2件以上
・ 卒業生卒業前調査 香川短期大学での「学生生活に満足している」学生の割合	80%以上
・ 日本人学生の中退率	1.9%以下

香川短期大学 基本目標と行動計画（令和2年度～令和8年度）（4/4）

- | | |
|-----------------|---------|
| ・ 進路決定率（希望者ベース） | 99% |
| ・ 経常収支差額比率 | 5%以上 |
| ・ 人件費比率 | 55%未満 |
| ・ S T比率 | 13.0人以上 |

中期計画に基づいた年度計画の作成・計画の進行管理

この中期計画に基づいた年度計画を作成し、自己評価委員会と連動させて、計画の進行管理を行う。

尽誠学園高等学校 基本目標と行動計画（令和2年度～令和6年度）

～生徒一人ひとりの持つ個性・特性を伸ばし、社会に貢献しうる「有用の真土」の育成を目指す～

基本目標		行動計画
I. 生徒の確保	1) 効果的な 広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塾への募集広報活動の範囲の拡大 ・ ホームページのリニューアル ・ コースの改編 ・ オープンスクール実施内容の再検討
	2) 志願者の 質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 奨学金の充実 ・ 選考方法にPBL方式、資格優遇措置を検討
II. 教育の質	1) 指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員育成システムの構築 ・ ICT設備の充実（施設設備補助金等の活用） ・ 資格試験受験希望者に対する講座を週6時間実施
	2) 国際交流の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外語学研修先候補地の調査および視察 ・ 相互ホームステイの実施 ・ ALTと生徒との放課後交流会開催
	3) 生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各コースの研究発表の場を検討 ・ 部活動外部指導者の検討 ・ スクールカウンセラー増員実施・ソーシャルワーカー採用検討
III. 進路	1) サポートの 充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタディサブリの活用 ・ 尽誠塾の再編 ・ 企業による出前授業、実習の活用 ・ 英語・国語・数学の教員増員
IV. 安全管理	1) 環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルスへの対処法を参考とした対応手順の確認 ・ 特別教室棟の管理方法の検討 ・ 図書館利用システムの構築
V. 地域連携	1) 地域に 根差した 学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市と連携した地域活性化プロジェクトの構築 ・ 中学校との部活動連携 ・ 非常時における地域ネットワークの構築、合同訓練の計画・実施

香川誠陵中学校・高等学校 基本目標と行動計画（令和2年度～令和6年度）		
～国際社会の一員としての自覚を高め、進んで公共のために尽くす行動力のある人間の育成を目指す～		
基本目標	行動計画	
I. 生徒の確保	1) 広報活動の工夫・改善(中学)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元対象イベント、オープンスクール改善等の新企画 ・ 在校生保護者有志を組織化しての広報活動の依頼 ・ 3年コースの検討 ・ 利用する広告媒体、メディアの見直し
	2) 広報活動の工夫・改善(高校)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塾とのつながりの強化 ・ 私立高校実質無償化+授業料等改訂の周知徹底 ・ インターネット出願導入で中学の先生の支持獲得
II. 教育の質	1) 指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業、授業見学の促進 ・ 県オンライン研修動画の活用 ・ 校内、校外研修への参加促進 ・ 保護者との連携強化
	2) 英語教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英検、TOEIC、TOEFL、GTEC受験促進と対策 ・ 習熟度に応じたオンライン英会話のコンテンツの選定 ・ 海外研修旅行先や回数、時期等の検討
	3) 授業+αの学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習や不登校対策等でスタディサブリ活用を検討 ・ サス学認定講師の資格を取得しての授業展開 ・ 習熟度に応じた講習の実施 ・ 中下位層の計算力等の向上に特化した取り組みの検討
	4) 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学入試問題の変化に応じた考査問題作成 ・ 将来の職業や研究を具体化する取り組み ・ 入試制度改革に関する研修会への積極的な参加
III. 環境	1) 環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良質な中古バスの計画的購入のための情報収集 ・ 備蓄食料や簡易トイレ等の計画的な整備 ・ 校内の外灯や防犯カメラ等の増設 ・ W i - F i 環境が整備された部屋の増加
IV. 運営	1) 管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初任給のアップによる優秀な人材の確保 ・ 労働環境の改善、給与面の待遇改善による離職防止、優秀な人材の確保 ・ 人件費削減のための方法の検討

認定こども園香川短期大学附属幼稚園 基本目標と行動計画（令和2年度～令和6年度）（1/2）		
～世界一通いたい幼稚園を目指します～		
基本目標	行動計画	
I. 環境整備	1) 安全環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設設備の安全点検と改修 ・ 防犯体制の強化（自動施錠装置、防犯カメラの増設）
II. 教育の質	1) 教育・保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の充実 ・ 外部講師による保育指導の充実 ・ 地域との協力、連携の強化
	2) 研修機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師による園内研修の充実 ・ 保育に活かせる園内研修の内容の改善 ・ 短期大学との共同研究の強化
III. 連携	1) 関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尽誠グループとの連携 ・ 近隣の関係機関との連携

認定こども園香川短期大学附属幼稚園 基本目標と行動計画（令和2年度～令和6年度）（2/2）		
基本目標		行動計画
IV. 働き方改革	1) 専門性の発揮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短時間勤務職員との連携、シフトの見直し ・ ICT化促進による仕事率の向上 ・ ベースアップの目標設置、業務達成度と目標の再設定

香川看護専門学校 基本目標と行動計画（令和2年度～令和6年度）		
～自ら学び、考えることを通して、看護の根拠となる科学的知識に裏付けされた知識・技術を駆使して 看護活動を展開する実践能力を養う～		
基本目標		行動計画
I. 学生の確保	1) 入学定員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校や准看護学院への積極的な訪問、交流会の開催 ・ 尽誠学園高校衛生看護科との交流 ・ 在校生による母校へのPR活動 ・ 入学者からの現状分析（比率・傾向）
	2) 退・休学者を出さない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生面接と指導の充実、心身の状況把握 ・ 卒業生との交流会の促進 ・ スクールカウンセラーの活用
I. 学生の確保	3) 効果的な広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ Webの活用、ホームページでの最新情報の公開 ・ 進学ガイダンスやオープンキャンパス、パンフレット等の内容充実
II. 教育の質	1) 指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5次カリキュラム改正に伴う新カリキュラムの実施 ・ 国家試験合格に向けての支援 ・ 教員の教科指導力の向上 ・ ICT設備の導入 ・ 事例研究、ケーススタディ学習のための文献検索システムの充実 ・ 心身の健康維持、安全のための適切な情報指示と指導
	2) 教員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門領域関連研修への積極的な参加と学内での意見交換 ・ 学生による授業評価の分析とそれに伴う授業方法の改善 ・ 教員の授業参観によるピアレビュー（同僚評価）の推進 ・ 管理職による評価システムの構築 ・ 授業や臨地実習等の年間活動報告の実施
	3) 研究活動の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究に関する研修会や学会への参加、研究発表の実施 ・ 市や実習病院と連携した共同研究の推進 ・ 文献検索システムの追加、スーパーバイザーシステムの設置
III. 地域連携	1) 地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域包括連携・協力協定」締結関連事業の推進 ・ 小中高への出前授業の推進 ・ 学生ボランティア活動の推奨（ホームページでの情報紹介等） ・ 地域住民への健康教育の推進
IV. 学習環境の整備	1) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災マニュアルの再検討 ・ 学習室の設置、職員室移転とインターネット環境の整備

Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概要

令和元年度の経常収支差額は28,424千円、基本金組入前当年度収支差額は98,129千円の黒字となった。経常収支差額が前年度より減少しているが、学生生徒等納付金の減少と図書館改築に伴う解体費用の増加によるものである。

(1) 収入の部

学生生徒等納付金は前年度比で約43,700千円の減額となったが、教育活動収入は約65,100千円の増額となった。増額の主な要因は雑収入で、定年退職者増加による退職金団体からの資金、県道新設事業に伴う尽誠学園高等学校への補償金、損害保険金等である。

特別収入には、施設設備補助金58,407千円のほか、県道新設事業に伴う土地売却益46,898千円等を計上している。

(2) 支出の部

人件費については、前年度比97,241千円の増額で、内訳は給与関係が約32,000千円、退職金関係が約65,000千円である。全体の人件費比率は58.6%で、前年度より若干上昇している。

教育研究経費は前年度比で77,919千円増額となっているが、主な要因は改築・道路新設に伴う校舎その他設備等の解体関連費及び整備費用約50,000千円と減価償却額16,423千円である。ここ数年続いた改築の影響で、尽誠学園高等学校の減価償却額は5年前と比較して3倍近く上昇している。また、最近はICT関連機器の整備が進んでいるため、今後は各校での減価償却額の増額が予想される。

管理経費については、大規模修繕等の突発的な支出がなかったため、前年度比で5,831千円の減額となった。

資産処分差額については、尽誠学園高等学校と香川看護専門学校で、旧校舎の処分差額として22,794千円を計上している。

2. 経営状況の分析

平成26年度から令和元年度にかけて善通寺キャンパスの改築が続いたため、固定資産構成比率や固定比率、減価償却額の増加が顕著である。また、大規模改築を全て自己資金で賄っているため、流動資産の割合が全国平均を下回っている。経常収支差額比率、事業活動収支差額比率はいずれも全国平均を上回っているものの、今年度は厳しい状況となっている。今後、改善を図るためには、教育活動での学納金や補助活動、受託事業の収入増のための取り組みの検討、さらに補助金・寄付金などの外部資金の獲得が喫緊の課題である。

3. 経営上の成果と課題

施設設備補助事業を活用することで、借入をせずに自己資金で改築事業を実施することができた。また、ICT関連機器も補助金の活用により順調に整備が進み、この度の新型コロナウイルス感染予防に伴う休校措置にも、他校に先駆けていち早くオンライン授業で対応できたことは、経営・教育併せての成果と言える。

しかし、施設設備補助は特別収入という突発的な収入であり、やはり最大の課題は教育活動収支差額を増加させることである。施設設備補助金の内容によって年度ごとの特別収支差額に差があるのは当然だが、令和元年度の場合、教育活動収支差額が大幅に減少している。18歳人口問題の影響が危惧される昨今だが、香川短期大学は定員充足率90%台を維持している。それでも収支差額が減少しているということは、さらなる積極的な外部資金の獲得活動、経費削減、業務の効率化に向けた教職員配置の見直し、の3点が重要であるということである。

経費の削減については、より精度の高い検証が必要である。また、人員削減はすぐにはできないことではないが、教員については必要な人員確保と適正な配置に努め、職員については業務の効率化と適正な人員配置を複数年計画で行うことが求められる。

さらに、経費の見直しによる削減だけでは、安定経営と言えるまでの財務状況に持っていくことは厳しいため、学

生徒の募集活動の強化とともに、補助金や寄付金などの外部資金の獲得に向けた対策は、短期大学のみならず、高校その他、法人全体で検討していくべき課題である。

4. 今後の方針・対応方策

教育環境の充実を図るため、宇多津キャンパスでは補助金を活用した空調設備のリニューアル工事の実施、普通寺キャンパスでは校舎、図書館の改築に続き、体育館の空調設備の設置等が計画されている。

また、近年強化してきたICT機器の導入をさらに進め、先進的な教育環境の充実に力を入れていきたい。

そして、教育環境の充実と財務の安定を両立させるために、人事の適正化とともに、学生生徒募集の強化と外部資金の獲得、経費の削減等に努めていきたい。

5. 経年比較

(1) 貸借対照表

固定資産の毎年の増加の要因は、平成26年度から令和元年度にかけて、普通寺キャンパス内の尽誠学園高等学校や香川看護専門学校での大規模な改築工事が続いたため、旧校舎の除却もあるが、それを上回る建物や構築物、備品等の増加によるものである。また、固定負債のうち8割以上が退職給与引当金、残りはリース資産等の長期未払金である。なお、平成28年度に借入金を完済後は借入実績はない。

貸借対照表

(単位：千円)

科目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
資産の部	固定資産	9,733,400	10,239,137	10,518,370	10,646,291	10,833,803
	流動資産	1,470,447	1,097,265	1,016,735	1,030,495	1,010,791
	合計	11,203,847	11,336,402	11,535,105	11,676,786	11,844,594
負債の部	固定負債	243,088	239,735	230,372	248,199	232,551
	流動負債	308,283	281,908	301,292	270,388	327,291
	合計	551,371	521,643	531,664	518,587	559,842
純資産の部	基本金	14,949,244	15,390,738	15,749,693	16,094,429	16,431,776
	繰越収支差額	△ 4,296,768	△ 4,575,979	△ 4,746,252	△ 4,936,230	△ 5,147,024
	合計	10,652,476	10,814,759	11,003,441	11,158,199	11,284,752
負債及び純資産の部合計		11,203,847	11,336,402	11,535,105	11,676,786	11,844,594

(2) 資金収支計算書・活動区分資金収支計算書

① 収入の部

香川短期大学附属幼稚園については、平成29年度に施設型給付に移行したことに伴い、幼稚園については主たる収入が学生生徒等納付金収入から施設型給付費収入に変更となった。

補助金収入には施設設備補助が含まれており、校舎改築や備品に対する補助等のいずれかがほぼ毎年交付されている。また、短期大学の受託事業収入と附属幼稚園の補助活動収入については、毎年の収入増を実現している。

令和元年度の雑収入は、主に県道新設に伴う尽誠学園高等学校の土地売却に伴う補償金である。

② 支出の部

人件費はほぼ横ばいだが、令和元年度は定年退職者の退職金増加により、例年より多い人件費となっている。また、教育研究経費については、校舎改築に伴う解体費用の計上、消耗品等の購入が増加したことにより年度によって数千万円単位の差異が生じている。

借入金については、香川誠陵中学校・高等学校建設の際に借り入れていた資金が平成28年度で完済となった。

資金収支計算書

(単位：千円)

科目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,299,803	1,299,653	1,276,777	1,290,352	1,246,574
	手数料収入	69,232	71,525	72,207	68,180	65,600
	寄付金収入	5,095	9,751	9,430	7,543	6,701
	補助金収入	881,863	710,775	759,136	727,680	765,325
	資産売却収入	1,271	0	600	150	45,678
	付随事業・収益事業収入	111,992	110,772	122,102	130,181	133,933
	受取利息・配当金収入	320	143	42	52	42
	雑収入	73,077	45,212	79,169	27,900	129,885
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	191,605	193,744	192,334	182,420	171,400
	その他の収入	702,484	557,117	724,802	600,207	523,569
	資金収入調整勘定	△ 456,328	△ 265,499	△ 306,258	△ 254,206	△ 338,064
	前年度繰越支払資金	1,054,966	1,189,132	830,703	901,460	967,916
合計	3,935,380	3,922,325	3,761,044	3,681,919	3,718,559	
支出の部	人件費支出	1,286,931	1,245,417	1,283,216	1,244,836	1,341,482
	教育研究経費支出	470,660	410,356	349,850	378,599	440,297
	管理経費支出	155,365	153,332	192,725	175,233	157,568
	借入金等利息支出	120	40	0	0	0
	借入金等返済支出	2,770	2,770	0	0	0
	施設関係支出	271,019	661,984	527,452	327,622	399,882
	設備関係支出	41,692	125,043	53,496	109,935	115,655
	資産運用支出	2,600	2,910	6,749	0	734
	その他の支出	613,569	567,600	536,044	571,037	541,055
	資金支出調整勘定	△ 98,478	△ 77,830	△ 89,948	△ 93,259	△ 126,701
	翌年度繰越支払資金	1,189,132	830,703	901,460	967,916	848,587
	合計	3,935,380	3,922,325	3,761,044	3,681,919	3,718,559

活動区分資金収支計算書(1/2)

(単位：千円)

科目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育活動による資金収支	教育活動資金収入計	2,245,899	2,242,994	2,291,249	2,222,158	2,287,382
	教育活動資金支出計	1,912,955	1,809,105	1,825,790	1,798,668	1,939,347
	差引	332,944	433,889	465,459	423,490	348,035
	調整勘定等	△ 3,688	△ 16,257	10,578	△ 13,600	△ 9,008
	資金収支差額	329,256	417,632	476,037	409,890	339,027
に施設整備等活動資金等収支	施設整備等活動資金収入計	196,726	4,840	28,390	39,478	106,313
	施設整備等活動資金支出計	315,311	789,937	587,698	437,556	516,270
	差引	△ 118,585	△ 785,097	△ 559,308	△ 398,078	△ 409,957
	調整勘定等	△ 64,278	1,838	154,948	54,693	△ 46,928
	資金収支差額	△ 182,863	△ 783,259	△ 404,360	△ 343,385	△ 456,885
	小計	146,393	△ 365,627	71,677	66,505	△ 117,858

活動区分資金収支計算書(2/2)

(単位：千円)

科 目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
に よ る 資 金 収 支	その他の活動資金収入計	448,056	469,547	464,077	478,094	461,739
	その他の活動資金支出計	460,283	462,352	464,994	478,143	463,210
	差引	△ 12,227	7,195	△ 917	△ 49	△ 1,471
	調整勘定等	0	2	△ 2	0	0
資金収支差額		△ 12,227	7,197	△ 919	△ 49	△ 1,471
支払資金の増減額		134,166	△ 358,430	70,758	66,456	△ 119,329
前年度繰越支払資金		1,054,966	1,189,132	830,702	901,460	967,916
翌年度繰越支払資金		1,189,132	830,702	901,460	967,916	848,587

(3) 事業活動収支計算書

① 収入の部

特別収入のうち令和元年度の資産売却差額は、県道新設による尽誠学園高等学校の土地売却に伴う収入である。その他の特別収入の大半は校舎改築に伴う施設設備補助で、電子黒板等 I C T 関連整備の補助金が含まれている。

② 支出の部

教育研究経費の増加は、主に校舎改築に伴う解体費用や減価償却額の増加によるものである。また、資産処分差額の大半は、旧校舎の解体や老朽化した備品の除却によるものである。

なお、徴収不能額等は過去5年以上発生していない。

事業活動収支計算書(1/2)

(単位：千円)

科 目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
教育 活動 収 支	収入 の 部	学生生徒等納付金	1,300,653	1,299,653	1,276,777	1,290,352	1,246,574
		手数料	69,232	71,525	72,207	68,180	65,600
		寄付金	2,670	5,593	6,897	5,369	4,534
		経常費等補助金	689,125	710,239	734,096	700,420	706,918
		付随事業収入	111,992	110,772	122,102	130,181	133,933
		雑収入	73,417	45,319	79,349	27,900	129,952
教育活動収入計		2,247,089	2,243,101	2,291,428	2,222,402	2,287,511	
教育 活動 収 支	支出 の 部	人件費	1,286,921	1,237,690	1,280,099	1,243,347	1,340,589
		教育研究経費	651,991	597,385	563,408	589,835	667,754
		管理経費	213,059	212,299	255,415	256,618	250,787
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計		2,151,971	2,047,374	2,098,922	2,089,800	2,259,130	
教育活動収支差額		95,118	195,727	192,506	132,602	28,381	
教育 活動 外 収 支	収入 の 部	受取利息・配当金	320	143	42	52	43
		その他の教育活動収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	320	143	42	52	43
	支出 の 部	借入金等利息	121	40	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	121	40	0	0	0
教育活動外収支差額		199	103	42	52	43	
経常収支差額		95,317	195,830	192,548	132,654	28,424	

事業活動収支計算書(2/2)

(単位：千円)

科目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
特別収支	収入の部	資産売却差額	1,271	0	600	150	47,160
		その他の特別収入	195,819	9,202	31,573	29,678	74,262
		特別収入計	197,090	9,202	32,173	29,828	121,422
	支出の部	資産処分差額	27,875	42,749	36,039	7,724	23,293
		その他の特別支出	850	0	0	0	0
		特別支出計	28,725	42,749	36,039	7,724	23,293
特別収支差額		168,365	△ 33,547	△ 3,866	22,104	98,129	
基本金組入前当年度収支差額		263,682	162,283	188,682	154,758	126,553	
基本金組入額合計		△ 160,259	△ 467,494	△ 454,909	△ 348,936	△ 347,934	
当年度収支差額		103,423	△ 305,211	△ 266,227	△ 194,178	△ 221,381	
前年度繰越収支差額		△ 4,400,191	△ 4,296,768	△ 4,575,979	△ 4,746,252	△ 4,936,231	
基本金取崩額		0	26,000	95,954	4,199	10,587	
翌年度繰越収支差額		△ 4,296,768	△ 4,575,979	△ 4,746,252	△ 4,936,231	△ 5,147,025	

(参考)

事業活動収入計	2,444,499	2,252,446	2,323,643	2,252,282	2,408,976
事業活動支出計	2,180,817	2,090,163	2,134,961	2,097,524	2,282,423

(4) 財務比率

※参考) 「全国平均」：日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」平成30年度短大法人の部

① 貸借対照表関係 (1/2)

比率名・算出式・意味		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	全国平均	指標	
資産構成	固定資産構成比率 $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	86.9%	90.3%	91.2%	91.2%	91.5%	84.5%	低い値が良い ▼	
	総資産に占める固定資産の割合で、資産構成のバランスを見る。学校法人はこの比率が高い傾向がある								
	流動資産構成比率 $\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	13.1%	9.7%	8.8%	8.8%	8.5%	15.5%	高い値が良い △	
	総資産に占める流動資産の割合で、多いと現金化可能な資産割合が大きく、資金流動性に富んでいる								
	固定比率 $\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	91.4%	94.7%	95.6%	95.4%	96.0%	95.5%	低い値が良い ▼	
	純資産に対する固定資産の割合で、資金の調達源泉(純資産の投下状況)とその使途を対比させる								
負債構成	固定負債構成比率 $\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	2.2%	2.1%	2.0%	2.1%	2.0%	6.5%	低い値が良い ▼	
	総負債+純資産に占める固定負債の割合で、長期的な債務状況を見る								
	流動負債構成比率 $\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	2.8%	2.5%	2.6%	2.3%	2.8%	5.1%	低い値が良い ▼	
	総負債+純資産に占める流動負債の割合で、固定負債と併せて短期的な債務の比重を見る								
	総負債比率 $\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	4.9%	4.6%	4.6%	4.4%	4.7%	11.6%	低い値が良い ▼	
	総資産に対する他人資金の比重を見るもので、低い方が望ましく、100%を超えると債務超過である								
	負債比率 $\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	5.2%	4.8%	4.8%	4.6%	5.0%	13.1%	低い値が良い ▼	
他人資金が自己資金を上回っていないかをみる比率で、100%以下で低い方が望ましい									

① 貸借対照表関係 (2/2)

比率名・算出式・意味			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	全国平均	指標
負債に備える 資産に備える	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	477.0%	389.2%	337.5%	381.1%	308.8%	304.0%	高い値が良い △
	一年以内の支払に対し、現金または現金化可能な資産がどの程度用意されているかを見る								
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	620.6%	428.8%	468.7%	530.6%	495.1%	505.6%	高い値が良い △
	翌年度分の学納金等が預金で適切に保有されているか見るもので、100%を超えることが一般的								
自己資金の充実	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.7%	99.7%	99.8%	99.6%	99.6%	97.5%	高い値が良い △
	要組入額に対する組入済基本金の割合で、100%が上限で、100%に近いほど未組入額が少ない								
	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	95.1%	95.4%	95.4%	95.6%	95.3%	88.4%	高い値が良い △
	総負債+純資産に占める純資産の割合で、比率が高いほど財政が安定している								

② 事業活動収支計算書関係

比率名・算出式・意味			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	全国平均	指標
収入構成	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{經常収入}}$	57.9%	57.9%	55.7%	58.1%	54.5%	60.5%	どちらともいえない ～
	經常収入に占める学納金の割合 外部要因の影響が少ないため比率が安定的に推移することが望ましい								
	補助金比率	$\frac{\text{經常補助+施設設備補助}}{\text{事業活動収入}}$	36.1%	31.6%	33.7%	32.3%	31.8%	28.5%	高い値が良い △
	事業活動収入に占める国または地方公共団体の補助金割合で、学納金に次ぐ収入源泉である								
支出構成	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{經常収入}}$	57.3%	55.2%	55.9%	55.9%	58.6%	61.9%	低い値が良い ▼
	經常収入に占める人件費の割合で、適正水準を超えると経営悪化につながる要因となる								
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{經常収入}}$	29.0%	26.6%	24.6%	26.5%	29.2%	28.6%	高い値が良い △
	經常収入に占める教育研究経費の割合で減価償却も含まれる 収支均衡が適正な範囲で高い方が良い								
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{經常収入}}$	9.5%	9.5%	11.1%	11.5%	11.0%	11.0%	低い値が良い ▼
經常収入に占める管理経費の割合で減価償却も含まれる 比率としては低い方が望ましい									
経営状況	經常収支差額比率	$\frac{\text{經常収支差額}}{\text{經常収入}}$	4.2%	8.7%	8.4%	6.0%	1.2%	-1.9%	高い値が良い △
	經常収入に占める經常収支差額の割合で、経常的な収支バランスを見る								
	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{經常収入}}$	4.2%	8.7%	8.4%	6.0%	1.2%	-3.3%	高い値が良い △
	本業である教育活動の収支バランスを見る								
	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前}}{\text{当年度収支差額}} \div \frac{\text{事業活動収入}}{\text{事業活動収入}}$	10.8%	7.2%	8.1%	6.9%	5.3%	-1.3%	高い値が良い △
比率が大きいかほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながる									